

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教職の意義 (Principles of Teaching)		藤原 幸男

授業の到達目標及びテーマ

教職の意義、教員の役割、職務内容を理解し、教員になるための心構えをつくる。

授業の概要

現代社会における教職の意義、教員の役割、職務内容、教員の服務と身分保障などについて考察するとともに、教員養成のあり方や大学の教職課程について解説し、教職に関する理解を深める。また、将来の進路選択に資するものとして、受講生が自らの資質や適性に照らしながら、教員への適性を見極めていく手がかりとなるよう、教職に関する情報を提供する。

予習：教科書をよく読み、その回の学習内容（知識）を確認する。

復習：配布されたプリント、学んだ内容を読み直し、整理する。

授 業 計 画

第1回： 講義の概要説明	第9回： 同上 V（保護者・地域・関係機関との連携）
第2回： 現代社会における教職の意義	第10回： 学校における教職員の連携・協働
第3回： 教員の種類・役割と仕事の性格	第11回： 教員の職場環境
第4回： 教員生活の1年間	第12回： 教員の任用と服務
第5回： 教員の仕事と専門性Ⅰ （子ども理解と学級経営）	第13回： 教員に求められる資質能力
第6回： 同上 Ⅱ（教科指導）	第14回： 教員養成と教職課程
第7回： 同上 Ⅲ（特別活動・生徒指導）	第15回： 教員の採用選考
第8回： 同上 Ⅳ（進路指導・教育相談）	第16回： 定期試験

テキスト： 教職問題研究会編『教職論（第2版）』ミネルヴァ書房、2011年。

参 考 書： 『解説教育六法（2016年度版）』三省堂、2016年。

評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末試験によって総合的に評価する。

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)	○						50
課題レポート	○	○			○		40
授業態度			○	○			10
受講者の発表							
演 習							
授業への参加度			○	○			

履修上の注意：

- 1 「教職の意義」は、教職科目の必修科目であり、今後の教職課程履修の出発点である。真摯な態度で授業に臨んでほしい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。
- 2 配布資料をきちんとファイルしておくこと。

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員					
教育原理 (Principles of Education)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ							
教育の思想と歴史を学ぶ。教育の思想・歴史といっても抽象的な事柄のみを学ぶのではなく、具体的な教育問題を考えながら、そのなかに教育の思想・原理を確認してゆく。また、それらの考え方が生まれてきた歴史的な背景を理解し、現代の教育を考える視座を確立する。							
授業の概要							
教育に関する思想と歴史を学ぶ。学校教育に即して、教育に関する基本的な考え方を学んでゆく。主に近代日本の学校の歴史的な展開を踏まえて、現代日本の学校で問題となっている事象を検討しながら教育の原理・思想を学んでゆく。各回の授業は具体的なテーマを定め、講師による解説と、受講者同士で小集団議論、作業、当日提出レポート作成などを行う。 授業の参加者で、教育について考え、議論する場にしてゆきたい。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で授業に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと							
授 業 計 画							
第 1 回：	講義概要説明、構成的エンカウターの体験	第 9 回：	学習指導要領について① (2008 年の改正と学力論争)				
第 2 回：	最近の日本の教育をめぐる議論① (「全国学力テスト」など)	第 10 回：	学習指導要領について② (その歴史)				
第 3 回：	最近の日本の教育をめぐる議論② (習熟度別授業など)	第 11 回：	教育課程をめぐる問題 (教科書検定と歴史教育問題)				
第 4 回：	カリキュラム編成の歴史と理論 (デューイ、ブルーナー)	第 12 回：	新しい教育内容の創造 (「性教育裁判」を考える)				
第 5 回：	近代日本の学校教育の歴史① (明治期)	第 13 回：	生徒指導の課題 (「いじめ問題」を考える)				
第 6 回：	近代日本の学校教育の歴史② (大正自由教育)	第 14 回：	学級経営の課題 (「学級崩壊」と「ゼロトレランス」を考える)				
第 7 回：	近代日本の学校教育の歴史③ (戦後教育改革)	第 15 回：	まとめ (子どもの権利条約と学校教育)				
第 8 回：	近代日本の学校教育の歴史④ (教育内容の現代化)						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。							
参 考 書： 1. 田代直人・佐々木司編著『やさしい教育原理 新版補訂版』有斐閣アルマ、2010 年 2. 文部科学省『中学校学習指導要領』							
評価方法・評価基準：							
期末考査(50%)、受講態度(20%)、授業への参加度(30%)の総合的評価とする。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合 (%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		50
授業態度	○	○	○	○	○		40
受講者の発表	○	○	○	○	○		10
演 習							
その他							
履修上の注意：							
教職科目である。教員になる強い意志を持ち参加すること。							

授業科目名	2単位 (2-0)	担当教員
教育心理 (Educational Psychology)		大城 宜武

授業の到達目標及びテーマ：教育の営みへの知識・理解を確実にする。

授業の概要

教育という営みについて、心理学的観点から探求し、精神的・身体的発達の様態について理解し、教育活動をより効果的にするための知識と技能を訓練する。特に「教授－学習」の側面からの学習の問題を取り扱い、生徒各々の発達と適応、動機づけ、学力、評価、パーソナリティ、知能、学習不適応への対応等の諸問題について理論的・実践的な検討を行う。このことをとおして、生徒の理解、教師としての資質や条件についての理解を、深める。以上のことを学ぶ背景的知識として、人間の心や行動を心理学的に捉えるための基礎的な知識の習得を目指す。

予習：リーディング課題を示す。

復習：理解確認のための課題を課す

授 業 計 画

第1回：講義の概要説明、教育観	第9回：記憶のメカニズム
第2回：発達理論① 遺伝説	第10回：知能概念
第3回：発達理論② 環境説	第11回：知能と学習と学習の障がい
第4回：発達理論③ 輻輳説・相互作用説	第12回：パーソナリティと適応
第5回：学習理論① 連合説	第13回：教育評価① 評価の目的
第6回：学習理論② 認知説	第14回：教育評価② 学力測定とテスト法
第7回：学習理論③ 「教授－学習」 説と適応処遇交互作用	第15回：教育評価③ パーソナリティ
第8回：動機づけのメカニズム	第16回：期末考査

テキスト： 前原武子（編著） 2002『生徒支援の教育心理学』 北大路書房 ￥2,400+税

参 考 書： 特になし

評価方法・評価基準：

期末考査(50%)、「卵を立てる」に関するレポート(30%)、授業への参加度・受講態度(20%)の総合的評価

到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○			○		60
小テスト・ 授業内レポート		○	○				30
授業態度	○		○				10
受講者の発表							
演 習							
その他							

履修上の注意：

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育の制度 (Educational Systems)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ 教育の在り方を社会的、制度的または経営的な視点から学び、教育を客観的にとらえる能力を養う。							
授業の概要 学校教育の制度、学校経営の基礎、学級経営の基礎、教育内容を決定する制度、教員組織、教育行政、教育財政、社会教育、等について学ぶ。具体的には、沖縄における教育に関わる問題・課題（八重山教科書問題・アメラジアン教育の教育権・学校選択制・学区の拡大）や全国的な問題課題（在日コリアンの教育権、大阪の教育基本条例、教科書検定制度）を検討しつつ、学んでゆく。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握した上で講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと							
授 業 計 画							
第 1 回： 教育の制度を学ぶ意義	第 8 回： アメラジアン教育の教育権						
第 2 回： 八重山教科書問題	第 9 回： 高校授業料無償化と朝鮮学校						
第 3 回： 教育委員会の役割	第 10 回： 多文化共生教育の制度的保障						
第 4 回： 教科書検定制度	第 11 回： 子どもの権利条約						
第 5 回： 学習指導要領について① (2008 年の改正)	第 12 回： 教育基本法						
第 6 回： 学習指導要領について② (その歴史、法的拘束力)	第 13 回： 公立小中学校の学校選択制度						
第 7 回： 高校入試制度	第 14 回： 学区制を考える (沖縄県の公立高校再編計画)						
	第 15 回： まとめ						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。							
参 考 書： 1 岡本徹・佐々木司(編著)『新しい時代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房 2009 2 文部科学省『中学校学習指導要領』							
評価方法・評価基準：授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)							
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		50
授業態度	○	○	○	○	○		40
受講者の発表	○	○	○	○	○		10
演 習							
その他							
履修上の注意： 1 「教職の基礎理論」に関する科目である。 2 教師になる強い意志を持って履修すること。欠席せず皆出席すること。 止むを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する							

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育課程論 (Principles of Curriculum)		照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ							
(1) 教科書の内容を教えるだけでなく、自分自身で何を教えるべきか、どのように教えるべきかを考えることができるようになること。							
(2) 学習指導要領の意図と意義を理解し、創造的なカリキュラム編成を行う素地を身につけること。							
授業の概要							
教育課程（カリキュラム）とは、望ましい学習が展開されるように配慮してつくられる、学校の教育内容の組織のことである。教科・科目など指導領域を設け、教材を選択・配列することによって編成される。それは、国や学校によって規定される部分もあるが、個々の教員により担われているものである。将来教員になり、教育議論をしっかりと理解し、学校の教育課程編成に参加してゆく能力の基礎を身につけてもらいたい。教育課程の原理、改革の歴史などを学び、具体的なカリキュラム編成の訓練を行う。							
予習：事前に配布された資料に目を通すこと							
復習：講義で配布された資料を熟読し、授業中の発言を再吟味すること							
授 業 計 画							
第1回 教育課程編成の意義							
第2回 教育課程編成の原理							
第3回 近代・現代日本の教育課程の歩み							
第4回 2008 年学習指導要領改訂の経過と特徴							
第5回 中学校学習指導要領と教育課程編成の実際							
第6回 高等学校学習指導要領と教育課程編成の実際							
第7回 国際学力調査の教育課程改革への影響							
第8回 教育課程と評価							
第9回 学級経営・HR 経営の年間指導計画							
第10回 生徒指導の年間指導計画							
第11回 道徳の年間指導計画							
第12回 進路指導の年間指導計画							
第13回 総合的な学習の時間の年間計画							
第14回 小学校外国語活動の年間指導計画							
第15回 まとめ（テスト）							
第16回 期末試験							
テキスト： 『中学校学習指導要領』文部科学省、2008年							
参 考 書： 『よくわかる教育課程』田中耕治、ミネルヴァ書房、2009年							
評価方法・評価基準：授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)	○						30
小テスト・ 授業内レポート	○	○			○		10
授業態度・ 授業への参加度			○	○			30
受講者の発表							
演 習			○	○			30
その他							
履修上の注意：							
1 「教育課程論」は、教職科目の必修科目であることに照らして、無遅刻無欠席で授業に臨んでいただきたい。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出すること。							
2 履修条件：1年次配当の「教職の意義」「教育原理」を履修済み、履修中であること。							

授業科目名	2単位 (0-2)	担当教員
英語科教育法Ⅰ (=英語教育法) (English Language Education I)		大城 直人

授業の到達目標及びテーマ

知識理解：英語教育理論や教育の現状について説明できる。

思考・判断：教育の問題を批判的に考察できる。

関心・意欲/技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、整理、発表できる。

授業の概要

教育とは何かという本質的な問題提議を通して、英語教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、指導要領や教授法の変遷について考察する。又、英語教育に関わる諸問題を広くとりあげながら、現状理解を図り、日本の英語教育の方向性について議論を深める。

予習：配付資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。

復習：指定された課題に取り組み期日までに提出する

授 業 計 画

第1回：オリエンテーション・英語教育の目的	第9回：教室の使用言語
第2回：日本の英語教育の歴史	第10回：授業の形態
第3回：英語教師論	第11回：測定と評価
第4回：言語習得と教授法	第12回：語彙の指導と評価
第5回：第一言語習得と第二言語習得	第13回：文法の指導と評価①
第6回：学習者論①	第14回：文法の指導と評価②
第7回：学習者論②	第15回：まとめ
第8回：英語教育課程	

テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」(三修社)

参 考 書： 課題図書、参考文献は授業において提示する。

評価方法・評価基準： 1.発表、授業への参加姿勢 2.レポート・クイズ・定期テスト

上記、1, 2をもって総合的に評価する。

成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
Take-home Exam (3回)		○	○					70%
小テスト・ 授業内レポート		○	○					20%
授業態度				○				10%
受講者の発表					○			評価に加えず
演 習		○				○		評価に加えず
その他								

履修上の注意：

- 1 テキストとともに課題図書が指定される。
- 2 予習を前提として講義を行う。

授業科目名	2単位 (0－2)	担当教員					
英語科教育法Ⅱ (English Language Education Ⅱ)		大城 直人					
授業の到達目標及びテーマ 知識理解：英語教育理論や日本の教育事情について説明できる。 思考・判断：中等教育における英語教育の問題を批判的に考察できる。 関心・意欲：技能・表現：情報や現状を客観的に捉え、議論できる。							
授業の概要 中学校・高等学校英語教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、指導能力の養成を図る。教授法の歴史的変遷、個々の教授法の特徴、問題点等について討議をし、中学校や高校の教育現場の実情に照らしながら、各技能指導の方法を探る。また、指導の実践力を養成するため、グループ活動を通して、実際の授業を想定した具体的な課題に取り組み、指導技術の基礎基本を体験する。 予習：配布資料及び教科書の該当箇所を事前に読んでおく。 復習：指定された課題に取り組み、期日までに提出する							
授 業 計 画							
第 1 回： オリエンテーション・日本における英語教育	第 9 回： スピーキングの指導と評価						
第 2 回： 教員養成・教育実習	第 10 回： ライティングの指導と評価						
第 3 回： 教材研究と授業計画①	第 11 回： 学習指導案の作成①						
第 4 回： 教材研究と授業計画②	第 12 回： 学習指導案の作成②						
第 5 回： リーディングの指導と評価①	第 13 回： 理論と実践の融合						
第 6 回： リーディングの指導と評価②	第 14 回： 4 技能の統合を目指した授業の実践						
第 7 回： リスニングの指導と評価①	第 15 回： まとめ						
第 8 回： リスニングの指導と評価②							
テキスト： 「英語科教育の基礎と実践」（三修社）							
参 考 書： 課題図書、参考文献―授業において提示する。							
評価方法・評価基準： 個人・グループ発表、レポート、クイズ、定期テストをもって総合的に評価する。							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
Take-home Exam (3 回))	○	○		○			5 0 %
小テスト・ 授業内レポート	○			○			3 0 %
授業態度			○				5 %
受講者の発表							5 %
演 習					○		1 0 %
その他							
履修上の注意： 1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。 2 事前に受講資格審査を行う。							

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員					
英語科教育法演習Ⅰ(中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. Teaching I)			大城 直人					
授業の到達目標及びテーマ								
知識理解・技能・表現：①理論を指導実践に生かすことができる。②日本人学習者の課題を理解し4技能の習得について指導できる。								
思考・判断：自他の授業を授業目標に沿って評価し、問題点を考察できる。								
関心・意欲/他：①多面的に教材研究を行い、②課外活動に積極的にかかわり、その成果を授業にフィードバックできる。								
授業の概要								
本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。								
予習：演習課題に事前に取り組んでおく。								
復習：配布資料に目を通し、様々な実践例を理解する								
授 業 計 画								
第1回：	オリエンテーション、 授業VTR視聴、授業評価	第9回：	スピーキング指導の計画と実践					
第2回：	英語授業の視点	第10回：	ライティング指導の計画と実践					
第3回：	授業の組立・指導案作成	第11回：	模擬授業・授業観察①					
第4回：	文法指導の計画と実践①	第12回：	模擬授業・授業観察②					
第5回：	文法指導の計画と実践②	第13回：	模擬授業・授業観察③					
第6回：	リーディング指導の計画と実践①	第14回：	模擬授業・授業観察④					
第7回：	リーディング指導の計画と実践②	第15回：	総括					
第8回：	リスニング指導の計画と実践							
テキスト： 特に指定しない。必要な資料を各授業において配布する。								
参 考 書： 授業において提示する。								
評価方法・評価基準：								
授業参加姿勢、グループ発表や模擬授業、レポート、クイズ、テストをもって、総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								なし
小テスト・ 授業内レポート		○	○		○	○		30%
授業態度				○	○			10%
受講者の発表								10%
演 習		○	○			○		40%
その他							課外活動	10%
履修上の注意：								
1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする。								

授業科目名		2単位 (0－2)	担当教員				
英語科教育法演習Ⅱ(中学校・高校) (Methods and Practice in Eng. TeachingⅡ)			大城 直人				
授業の到達目標及びテーマ							
知識・理解/技能・表現/思考・判断：①中・高における50分の授業案を作成し、実践できる。							
② 授業のための教材を研究・作成することができる。							
③ 自他の授業を客観的に分析し、課題を発見し、改善することができる。							
関心・意欲：他者の授業に積極的にかわり、支援することができる。							
授業の概要							
受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践研究する。これまでの英語教科教育法で学んだことを踏まえ、実習校で使用している教科書を基に、各自、学習指導案を作成し、模擬授業を2回実践する。授業後は、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の活動を通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を培う。							
予習：教材研究を行い、指導案を作成する。							
復習：「振り返りシート」を作成し、改善点を再考する。							
授 業 計 画							
第1回： 授業計画・運営について		第9回： 模擬授業/授業検討会⑥					
第2回： 学習指導案の分析と評価		第10回： 模擬授業/授業検討⑦					
第3回： 授業観察（着眼点と分析の方法）		第11回： 模擬授業/授業検討会⑧					
第4回： 模擬授業/授業検討会①		第12回： 模擬授業/授業検討会⑨					
第5回： 模擬授業/授業検討会②		第13回： 模擬授業/授業検討会⑩					
第6回： 模擬授業/授業検討会③		第14回： 模擬授業/授業検討会⑪					
第7回： 模擬授業/授業検討会④		第15回： 模擬授業/授業検討会⑫					
第8回： 模擬授業/授業検討会⑤							
テキスト： 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。							
参 考 書： 授業において提示する							
評価方法・評価基準：教案、模擬授業内容、授業計画とその準備、授業参加姿勢、提出物をもって総合的に評価する。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)							なし
小テスト・ 授業内レポート	○	○		○	○		20%
授業態度			○	○			30%
受講者の発表							評価に加えず
演 習	○	○			○		50%
その他							
履修上の注意：							
1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。							
2. 模擬授業の前に必ず、教案を提出する。							
3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
道徳教育の研究 (Moral Education)			照屋 信治					
授業の到達目標及びテーマ 道徳教育の歴史と理論を学び、道徳教育の実践者としての基礎を養う。								
授業の概要 主に日本の学校教育との関わりで道徳教育の歴史と理論を振り返り、道徳に関わる教育問題を検討し、学校における道徳教育実践を検討する。それらを通じて、道徳教育に関する基礎的な素養の獲得を目指す。さらに教育（学）全般についての理解を深める。 授業方法に関しては、一方的な講義形式は行わない。各回のテーマに関して、講師が、授業前半で簡単な説明を行い、授業の後半では、当日提出レポート方式、グループディスカッション、ディベートなどを適宜導入し、学生の主体的な学びを促す。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと								
授 業 計 画								
第 1 回： 道徳教育はどうあるべきか		第 8 回： 道徳教育の歴史①（戦前の修身教育と教育勅語）						
第 2 回： 同和（人権）教育を学ぶ①		第 9 回： 道徳教育の歴史②（戦後の道徳の教科化をめぐる議論）						
第 3 回： 同和（人権）教育を学ぶ②		第 10 回： 学習指導要領と道徳教育―「愛国心」と道徳教育を考える						
第 4 回： 同和（人権）教育を学ぶ③		第 11 回： 「心のノート」の意義と問題点を考える						
第 5 回： 〈生・性・死〉の授業の意義を考える		第 12 回： 道徳教育と開発教育						
第 6 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業①		第 13 回： いじめ問題を考えよう						
第 7 回： 道徳性の発達（コールバーグ）とモラルジレンマ授業②		第 14 回： 道徳教育とエンカウンター						
		第 15 回： ディベート（道徳の教科化）						
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。								
参 考 書：								
1 中野目直明・小出一郎 編 『新しい道徳教育』（第2版）酒井書店・育英堂 2006								
2 藤田昌士 著 『道徳教育～その歴史・現状・課題』 エイデル研究所 2004								
3 柴田義松(編著) 『道徳育～理論と実践』学文社 1992								
4 文部科学省 『中学校学習指導要領』								
評価方法・評価基準： 授業への参加度、授業態度、レポート、期末テストによって総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○			○		40
授業態度		○	○	○	○	○		30
受講者の発表		○	○	○	○	○		30
演 習								
その他								
履修上の注意：								
1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。 出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。								

授業科目名		2単位 (2-0)	担当教員						
特別活動の研究 (Extra-curricular Education)			照屋 信治						
授業の到達目標及びテーマ 特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、特別活動の具体的な実践方法のいくつかを身につける。									
授業の概要 特別活動の目標は、「望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力や資質」を培うことである。 本講においては、特別活動の意義・目標・指導の理論等について学習し、ホームルーム活動（学級活動）・生徒会活動・学校行事等における実践的指導力の養成を図ることを目指す。特に、学校における基礎的・基本的な生活集団としてのホームルーム活動（学級活動）の望ましいあり方やその運営方法、実践演習等を行い考究する。 予習：「授業計画」にある教育用語や問題をネットや文献で調べ、概要を把握したうえで講義に臨むこと 復習：授業中に提示された参考文献のなかから興味があるものに目を通すこと									
授 業 計 画 ※授業計画変更予定。新しいシラバスは、クラスで配布します。									
第 1 回：オリエンテーション（講義概要、受講心得、特別活動の課題等）		第 8 回：ホームルーム活動（学級活動）の指導計画							
第 2 回：特別活動と教育課程		第 9 回：ホームルーム活動（学級活動）の展開							
第 3 回：特別活動の意義		第 10 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習①							
第 4 回：特別活動の目標		第 11 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習②							
第 5 回：ホームルーム活動（学級活動）の内容		第 12 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習③							
第 6 回：ホームルーム活動（学級活動）と生徒会活動		第 13 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習④							
第 7 回：ホームルーム活動（学級活動）と学校行事		第 14 回：ホームルーム活動（学級活動）の演習⑤							
		第 15 回：まとめ							
テキスト： 講師が配布するレジュメ・資料をテキストとして用いる。									
参 考 書：渡部邦雄 他編『実践的指導力をはぐくむ特別活動指導法』日本文教出版、2009 年、文部科学省『中学校学習指導要領』									
評価方法・評価基準：授業への参加度、課題、試験等により総合的に評価する。									
成績評価		到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（％）
試験 （中間・期末試験）									
小テスト・授業内レポート			○	○					20
授業態度			○	○	○	○	○		30
受講者の発表			○	○	○	○	○		40
演 習									
その他									10
履修上の注意：									
1 「教育課程及び指導法」に関する科目である。教師になる強い意志を持って履修すること。出席状況等を十分加味する。やむを得ず欠席する時は事前に欠席届を提出する。									

授業科目名	2単位 (2－0)	担当教員					
教育方法 (Educational Methodology)		大城 亘武					
授業の到達目標及びテーマ： 教育方法の歴史を概観し、グループでティーチング・プランを作成し、模擬授業を実演する。							
授業の概要 カリキュラムとして系統化・統合された教授材をいかにして より効果的な教授・学習を可能にするか、について得られている多くの知見について学ぶ。 プレゼンテーション・ソフトを利用した模擬授業を実施する。 予習：その都度リーディングリストを課す 復習：振り返りメモの提出を課す							
授 業 計 画							
第 1 回：	講義の目的と評価方法の説明、 講義の概要を説明 教職教養科目（教育原理、教育心理） についての振り返りテストと開設	第 9 回：	教育課程と教材の選択・ 配列・組織				
第 2 回：	「教授-学習」理論①	第 10 回：	情報通信技術と教育方法				
第 3 回：	「教授-学習」理論②	第 11 回：	教材研究と授業の技術				
第 4 回：	教育方法の展開① コメニウスの方法を中心に	第 12 回：	教材研究演習（模擬授業）①				
第 5 回：	教育方法の展開② ヘルバルトの方法を中心に	第 13 回：	教材研究演習（模擬授業）②				
第 6 回：	教育方法の展開③ 教育方法と学力	第 14 回：	教材研究演習（模擬授業）③				
第 7 回：	学習と個人差	第 15 回：	教材研究演習（模擬授業）④				
第 8 回：	教科内容の課題	第 16 回：	期末考査				
テキスト： 田中耕治、他 2012 『新しい時代の教育方法』有斐閣							
参 考 書： 特になし							
評価方法・評価基準： 下記表による。							
成績評価 到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)	○	○	○		○		5 0
小テスト・ 授業内レポート	○	○					1 0
授業態度							
受講者の発表					○		
演 習	○	○	○	○	○		4 0
その他							
履修上の注意： 「教育心理」、「教育原理」を履修していること、さらに「コンピューター基礎演習」を 履修していること。							

授業科目名		2単位 (2－0)	担当教員					
生徒指導・進路指導 (Guidance)			新里 健					
授業の到達目標及びテーマ 本講義では、生徒指導の基礎的な理論、実態、要因、指導の実際（事例の検討等）について学び、多様な個性をもつ生徒に対応できる能力を身につけることを目標とする。								
授業の概要 近年、学校での不登校、いじめ、非行等の教育問題が多発し、これまで以上に教師による生徒指導の必要性が叫ばれている。また、少子化や核家族などの要因から、子どもの基本的生活習慣の乱れや社会性の発達の遅れ、自立への遅れなどが指摘され、家庭教育や学校教育が深刻な問題となってきた。このような子どもの行動を予防・改善していくためには、教師が子どもの心を理解し、子どもと向き合うことが重要である。 本講義では、生徒指導の基礎的な理論や教育現場の指導の実際などについて紹介し、その対策を参加型授業で体験する。また、進路指導については、近年の中途退学を紹介しつつ、生徒に対する進路指導がどうあるべきか、また、受講者自身の進路についてもどうあるべきか体験を通して学ぶ。 予習：授業で指示された事項を事前に調べ学習しておくこと。 復習：授業の際に指示した箇所を再度振り返って読み、理解に努めること								
授 業 計 画								
第 1 回：	本講義の説明、紹介	第 9 回：	生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ①一言語でのコミュニケーションの仕方					
第 2 回：	生徒指導の意義	第 10 回：	生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ②－自尊感情を高める方法					
第 3 回：	生徒指導の方法	第 11 回：	生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ③－自己主張の仕方 (アサーショントレーニング)					
第 4 回：	問題行動の理論と実際・対応① －生徒の不適応行動－不登校と引きこもり	第 12 回：	生徒指導の実際：対人関係能力を育てる ④－問題解決の仕方（ステップ＆ケース）					
第 5 回：	問題行動の理論と実際・対応② －いじめ	第 13 回：	進路指導の理論と指導 －進路選択と自分さがし					
第 6 回：	問題行動の理論と実際・対応③ －学校不適応（ADHD、アスペルガー、学習障害）	第 14 回：	進路指導の理論と指導－キャリア教育					
第 7 回：	問題行動の理論と実際・対応④ －基本的生活習慣と非行	第 15 回：	高等学校における中途退学・不本意進学 問題 まとめ					
第 8 回：	問題行動の理論と実際・対応⑤ －非行	第 16 回：	試験					
テキスト： 授業の際にプリントを配布する。								
参 考 書： 岸田元美監修 河合伊六・佐藤修策編 『改訂 生徒指導 新しい教育改革をふまえて』 2001 北大路書房 新里健・島袋有子 『やってみよう ソーシャル・スキル・トレーニング33 学級経営に生かす S S T』 2008 グリーンキャット 宮下一博・河野莊子編著 『生きる力を育む生徒指導』 2005 北樹出版 平木典子 『アサーショントレーニング－さわやかに自己表現＞のために』 2005 日本・精神技術研究所 マシュー・マッケイ、ピーター・D・ロジャース、ジュディス・マッケイ著 榊原洋一、小野次朗監修、新里健、足立佳美監訳、坂本輝世訳 『怒りのセルフコントロール－感情への気づきから効果的コミュニケーションスキルまで(When anger hurts-quieting the storm within)』 2011 明石書店								
評価方法・評価基準： 評価は、授業内レポート、試験、授業への参加状況、授業への意欲・関心などを総合的にみて行う。授業内レポート(小テスト)の課題は授業の際に指示する。3 分の 1 以上を欠席した場合は、単位の取得は認められない。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
試験 (期末試験)		○	○					70
小テスト・ 授業内レポート		○						20
授業態度				○	○			10
受講者の発表								評価に加えず
演 習								評価に加えず
履修上の注意：教育心理学を履修済みであることが好ましい。								

授業科目名	2 単位 (2－0)	担当教員					
学校カウンセリング (School Counsering)		浅野 恵美子					
授業の到達目標及びテーマ 臨床心理学の基本を学び、変化する社会と学校状況における子どもたちの悩み・問題をみつめる。 自分らしく生きる心、・カウンセリングマインド、教師と生徒の関係、相談スキルなどを学ぶ。							
授業の概要 授業では、学校カウンセリングの知識を得るだけではなく、授業集団の変化・発展にも注目し、グループワークや討論や遊び（アートやロールプレイング・心理劇）などを取り入れて行う。問題行動を個人の資質に還元するのではなく、関係的・状況的・集团的・社会的に理解できることが重要である。教師の資質としての人間関係スキル・セルフケア（自己知）・身体の知・感情の知とつながり、共に生きるセンスが育っていくように、心理劇法での実験を行い、討論し、共に探求したい。 予習：宿題のレポートに取り組む 復習：授業において振り返り、それぞれの学びを最終論文にまとめる							
授 業 計 画 ※授業計画は若干変更になることもあります							
第 1 回： 授業入門～関係学的アプローチでの学び方	第 9 回： 学校における人間関係―非行						
第 2 回： 社会と学校と生徒をめぐる諸問題	第 10 回： 学校における人間関係―不登校						
第 3 回： 心理劇と家族療法	第 11 回： 発達障害、精神障害など						
第 4 回： 論理療法、アドラー心理学	第 12 回： 親離れ、子離れ、引きこもり						
第 5 回： 交流分析・精神分析	第 13 回： 精神的・生活的・経済的自立						
第 6 回： 内観療法・遊戯療法・箱庭療法	第 14 回： 生徒と親と学校と教師の関係						
第 7 回： カウンセリング・来談者中心療法	第 15 回： まとめ・テスト・研究発表						
第 8 回： 生きる意味―生と死と魂・霊性							
テキスト： 浅野 恵美子著 「心の宇宙散策」 浅野にんげん研究所（2012年）							
参考書： 日本関係学会編 「関係＜臨床・教育＞―気づく・学ぶ・活かす―」 不昧堂出版							
評価方法・評価基準：							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
毎回の小テスト							
課題レポート	○	○	○				40
授業態度	○	○	○				10
受講者の発表	○	○	○				10
演 習	○	○	○		○		20
出 席							
その他							20
履修上の注意： 毎回テキストを使います。出席、参加、意見、考え、書く事が重要です。 主体的な参加を高く評価します。							

授業科目名		1 単位 (0-2)	担当教員					
教育実習事前事後研究 (Pre, Post-Teaching Practicum Seminar)			照屋信治・大城直人					
授業の到達目標及びテーマ								
1. 教員の職務と学校現場の状況を理解する。2. 教育実習の目的を明確にし、実習目標をたてて実習に臨むことができる。3. これまで学んだ知識を統合し、実践に移すことができる。4. 学校現場の諸問題を考察し、積極的に議論に参加できる。5. 実習校と連絡を取り、実習への打ち合わせや授業計画等について責任を持って対応できる。								
授業の概要								
(事前研究) 教育実習の目的・意義について理解を深め、教育実習に対する心構えと実習教師としての基本的な知識や指導性を確実に身につける。また、教員の職務内容や教員の職務内容や教育現場に対する理解を図り実習への備えとする。授業は本講義担当者の講義、受講生同士のディスカッションによって構成される。実習に対する自己の目標を明確にし、実習への意欲を高めるものとした。								
(事後研究) 教育実習期間中の「中間報告」及び終了後の「事後報告」を通じて、学校種（中学校・高等学校）、学習環境（地域差、学習母集団）等の違いによる教育の多面性を共有し、多様な教育課題を見付けるとともに、教育実習、介護等体験や教職科目において学んだ全ての事柄をあらためて整理、統合、検討、評価する。また、個人発表やグループ活動、ディスカッション等の講義から、その教育課題、教育の本質について議論を深めていく。それらの活動は、教育現場の体験の成果をより明確に今後の教育活動に位置づけ、現場体験に基づいた「教育観・教師観」を培うものである。								
予習：テキストを熟読すること								
復習：テキスト及び配付したレジュメを再読すること								
授 業 計 画								
第 1 回	講義の概要説明、実習に向けて							
第 2 回	学校訪問について							
第 3 回	実習前に準備すべきこと							
第 4 回	講話：高等学校の現場から							
第 5 回	講話：中学校の現場から							
第 6 回	授業参観・教材研究							
第 7 回	講話：若い教師に聞く							
第 8-10 回	教育実習中間報告会（全ての受講者が教育実習期間の土曜日に行う。全員参加であり、実習生が直面している諸問題について共有し、意見交換を行う）							
第 11-13 回	教育実習反省会（全ての受講者が教育実習終了後に土曜日などを利用し行う。全員参加し、教育実習の経験を反省し吟味する。）							
第 14 回	教育実習レポートの作成							
第 15 回	教育実習成果報告会							
テキスト： 教育実習を考える会 編 『新編 教育実習の常識』（第 8 版）倉丘書林 2005								
評価方法・評価基準： 授業への参加度、発表・討議参加、提出物等、実習への取り組み姿勢をもって総合的に評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合（%）
小テスト・授業内レポート		○	○					20
授業態度				○	○			30
受講者の発表		○	○	○		○		50
演 習								なし
その他								欠席は厳しく減点する
履修上の注意：								
1 教師としての資質が問われる体験学習であり、教職科目の必修科目であることに照らして、出席状況等を充分加味する。全回出席するのが基本だが、やむを得ず欠席する時は確実に欠席届けを提出する。								
2 「事前・中間・事後指導」の履修を持って教育実習研究は完結する。よって前期から後期にまたがる期間行うことになる。								

授業科目名	4単位	担当教員																																																								
教育実習(中学) (Senior High School Teaching Practicum)		照屋信治・大城直人																																																								
授業の到達目標及びテーマ																																																										
中学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。 ①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能, 教材研究と授業準備) ②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握, 学級経営, 課外活動への関心) ③意欲を持って実習に臨み, 態度に示すことができる。(勤怠状況, 実習への意欲, 学級事務等の実務能力等)																																																										
授業の概要																																																										
教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多方面に学び、教育の本質についての認識を深めることである。実習は、中学校において9月に実施され、実習期間は原則的に3週間(120時間)である。但し、二学期制の学校の場合、9月以前に実施されることがある。中学校教育実習「5単位」は、実習校において120時間の実習を行うとともに、大学において、科目「教育実習事前事後研究」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。 予習：全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること 復習：日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること																																																										
実 習 内 容																																																										
○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。 ・ オリエンテーション ・ 学校組織・学校経営 ・ 学級経営 ・ 「英語」学習指導 ・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導 ・ その他																																																										
テキスト：																																																										
1. 実習校使用の英語教科書 2. 実習校使用教科書のマニュアル 3. その他(学校要覧、学校経営計画等)																																																										
参 考 書： 教育十種を考える会 編『新編 教育実習の常識』 蒼丘書林、2000 年																																																										
評価方法・評価基準：																																																										
実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価を含めて、総合的・客観的に評価する。																																																										
<table><tr><th>到達目標等 成績評価</th><th>知識・理解</th><th>思考・判断</th><th>関心・意欲</th><th>態度</th><th>技能・表現</th><th>その他</th><th>評価割合(%)</th></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																			
定期試験 (中間・期末試験)																																																										
小テスト・ 授業内レポート																																																										
授業態度																																																										
受講者の発表																																																										
演 習																																																										
その他																																																										
履修上の注意：実習資格（※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと。）																																																										
1. 指定された「教職科目」を履修済みあること。 2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。 3. その他、必要な要件を満たしていること。																																																										

授業科目名			担当教員																																																									
教育実習（高校） (Senior High School Teaching Practicum)		2単位	照屋信治・大城直人																																																									
授業の到達目標及びテーマ																																																												
高等学校において教育実習を行う。実習中の指導・評価は、特に次の3点からなされる。																																																												
①教科指導ができる。(教科や指導に関する知識・理解・技能、教材研究と授業準備)																																																												
②生徒指導ができる。(生徒理解と実態把握、学級経営、課外活動への関心)																																																												
③意欲を持って実習に臨み態度に示すことができる。(勤怠状況、実習への意欲、学級事務等の実務能力)																																																												
授業の概要																																																												
教育実習の意義は、実習校の指導教諭の下で、実際の教育活動を体験することにより、																																																												
教員としての心構えや教育活動に必要な基本的な知識・技術を多面的に学び、教育の本質に																																																												
ついての認識を深めることにある。実習は、6月に高等学校において実施され、実習期間は																																																												
原則的に2週間（80時間）である。																																																												
高等学校教育実習「3単位」は、実習校において80時間の実習を行うとともに、大学におけ																																																												
る実習のためのガイダンスやオリエンテーションに出席し、科目「教育実習研究・事前事後																																																												
指導」(1単位)を履修し、所定の要件を満たしてはじめて認定されるものである。																																																												
予習：全ての教職科目を復習し、授業等の準備をすすめること																																																												
復習：日々、教育実習の日記を記し、教育実習レポートを作成すること																																																												
実 習 内 容																																																												
○ 観察実習、参加実習、総合・応用実習の形態をとりながら、主に以下の内容について実習を行う。																																																												
・ オリエンテーション																																																												
・ 学校組織・学校経営																																																												
・ 学級経営																																																												
・ 「英語」学習指導																																																												
・ 道德教育・特別活動・生徒指導・進路指導																																																												
・ その他																																																												
テキスト：																																																												
1. 実習校使用の英語教科書																																																												
2. 実習校使用教科書のマニュアル																																																												
3. その他（学校要覧、学校経営計画等）																																																												
参 考 書：教育実習を考える会 編『新編 教育実習の常識』蒼丘書林、2000年																																																												
評価方法・評価基準：																																																												
実習校指導教諭の評価を下に、実習レポート、研究授業時の指導案や「教育実習研究」等の評価																																																												
を含めて、総合的・客観的に評価する。																																																												
<table><tr><td>到達目標等 成績評価</td><td>知識・理解</td><td>思考・判断</td><td>関心・意欲</td><td>態度</td><td>技能・表現</td><td>その他</td><td>評価割合(%)</td></tr><tr><td>定期試験 (中間・期末試験)</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>小テスト・ 授業内レポート</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>授業態度</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>受講者の発表</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>演 習</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>その他</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)	定期試験 (中間・期末試験)								小テスト・ 授業内レポート								授業態度								受講者の発表								演 習								その他							
到達目標等 成績評価	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)																																																					
定期試験 (中間・期末試験)																																																												
小テスト・ 授業内レポート																																																												
授業態度																																																												
受講者の発表																																																												
演 習																																																												
その他																																																												
履修上の注意：実習資格（※ 詳細については、教職ガイダンス資料参照のこと）																																																												
1. 指定された「教職科目」を履修済であること。																																																												
2. 教育実習に関するガイダンス・オリエンテーションに出席すること。																																																												
3. その他、必要な要件をみたしていること。																																																												

授業科目名		2単位 (0-2)	担当教員					
教職実践演習（中・高）			照屋信治・大城直人					
授業の到達目標及びテーマ								
教職の授業を通して得た学習知と教育実習、介護等体験、学習支援ボランティア等で得た指導力や実践力、そして経験知を統合し、全学年を通じた「学びの軌跡の集大成」として位置づける。								
授業の概要								
4年間で学んだことを有機的に統合し、教師としての使命感や責任感、そして教育的愛情に裏打ちされた実践的指導力を有する教員としての資質形成を目指す。また、多様な教育課題やその展望についてグループ討議やロールプレイを通して考察する中で、教師に求められる社会性や対人能力を培っていきたい。自己の取り組むべき課題を認識し、必要な知識や技能等を補いながら、教壇実践を円滑にスタートさせることができるよう、本学教員と外部教育関係者とで連携して演習を実施する。								
予習：各人の担当個所の準備を行い、各回の課題を提出すること								
復習：各回の授業の課題、感想文などをまとめて提出すること								
授 業 計 画								
	内 容	担 当						
第 1 回：	イントロダクション・教育実習を振り返る（講義、個人発表）	照屋・大城						
第 2 回：	学校現場か抱える教育課題（グループ討議）	照屋・大城						
第 3 回：	生徒理解・カウンセリング（講義、ロールプレイ）	照屋・大城						
第 4 回：	学級経営ー共に育つ場の創造（グループ活動）	照屋・大城						
第 5 回：	特別活動ー生徒の個性を伸ばし可能性を拓く（グループ活動・全体討議）	照屋・大城						
第 6 回：	学校教育とノーマライゼーション（事例研究、全体討議）	照屋・大城						
第 7 回：	教育政策ー教員養成・採用・研修（講義）	照屋・大城						
第 8 回：	教育実践構想ー理想の学校・学級づくり（グループ活動）	照屋・大城						
第 9 回：	英語の授業と地球をつなぐアクティビティー（グループ活動）	照屋・大城						
第 10 回：	国際理解教育のファシリテーターとしての英語教師の役割（講義）	照屋・大城						
第 11 回：	ティームティーチング成功の鍵（模擬授業・全体討議）	照屋・大城						
第 12 回：	リーディング教材と文学（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 13 回：	英語コミュニケーションと英文法（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 14 回：	英語教育とアイデンティティーーOKINAWA を教材化する（グループ活動・講義）	照屋・大城						
第 15 回：	まとめ、「理想の英語教師像とは」（全体討議・講義）	照屋・大城						
テキスト： 授業内容に応じて資料を配布		参 考 書： 適宜提供						
評価方法・評価基準：								
毎回の授業におけるレポート、発表、討議等への参加状況を総合的に判断し、評価する。								
成績評価	到達目標等	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合(%)
定期試験 (中間・期末試験)								
小テスト・ 授業内レポート		○	○	○	○	○	○	20
授業態度		○	○	○	○	○	○	40
受講者の発表		○	○	○	○	○	○	40
演 習								
その他								